


平成 26 年度 教師海外研修（派遣国：バングラデシュ） 指導案（兼実践報告書）

1. 単元名(活動名)：日本との縁(ゆかり)をもとめて～違いについて考える					
2. 対 象：北海道旭川商業高等学校 2年C組(40名) 授業者：高橋 伸年(TT授業)	3. 学習領域				
		1	2	3	4
4. 教科との関連性： 商業科「国際コミュニケーション」	A多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	Bグローバル社会	相互依存	情報化		
	C地球的課題	人 権	環 境	平 和	開 発
	D未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
5. 実施時期：平成27年3月		6. 時数：3時間			
7. 単元の目標(評価の観点を意識して設定)： ・【関心・意欲】 バングラデシュのくらしや文化に興味・関心をもつ。 ・【技 能】 他者の意見に耳を傾け、違いについて考え、自分の意見をのべることができる。 ・【知識・理解】 バングラデシュと日本が、様々な点でつながっていることを理解する。			8. キーワード： ・日本との縁(ゆかり) ・宗教と生活 ・違いについて考える		
9. 単元について(教材観、単元設定の理由、開発教育/国際理解教育の視点等)： 生徒たちにバングラデシュについて聞くと、バングラデシュってどこ?何か貧しそう、大変そう、発展途上国……。そういったイメージをもっているのではないだろうか。高校2年生が今までの授業で学習してきたことから考えるとそれは当然のことである。結局、受験勉強を通して貧しいからとか大変そうだからとかそこで思考回路が止まっているだけのことで、そこから先を学習したりする機会がないだけである。そこを「国際コミュニケーション」という科目の中で、日本とバングラデシュの間で、暮らし・食・宗教・スポーツ・町並み他様々なものにスポットをあて、どんな違いがあるか、また、あつていい違いなのか、あつてはいけない違いなのか、など写真やカードを使い背景に隠れていることを踏まえながら一緒に考えていきたい。日本と遠く離れたバングラデシュがどんなことでつながっているのかも感じさせ、地球規模でつながっている世界の現状にも目を向けさせたい。 <u>1時間目～バングラデシュの概要(文化理解)</u> 10グループごとの国あてクイズ。できるだけ明るく楽しい写真を吟味。写真から文化や風習の違いを感じ取り、バングラデシュを肯定的にとらえられるような授業作りをする。他、ベンガル文字の学習(名札)。 <u>2時間目～バングラデシュと日本の比較</u> 前半は、宗教の違いを意識した授業(伝統衣装、おでこシール、エイブラハムダンス)。後半は、日本とバングラデシュの写真を比較し、気づいたことの発表と疑問についてみんなで共有。 <u>3時間目～違いについて(あつていい違い、あつてはいけない違い、どちらもいえない違い)</u> カード学習。カードの空欄をグループで想像し埋める。解答後、カードを違いについて3つに分類。分類後、「あつていけない違い」について特に考えを深める。					

10. 展開計画（3時間扱い）		
展開順	発問・働きかけ 主な学習活動と学習者（児童生徒）の意識	留意点など
1時間	<p>バングラデシュの伝統衣装（パンジャビ）を着て入場。 「アッサラーム！」（こんにちは） 「今日から皆さんと外国のある国についてグループで学習します。まず、最初にグループに分かれてもらいます。列から順に紙を配ります。」</p>	<p>起立して2回程度</p> <p>4分割の紙をランダムに配る。自分の相手を探させる。（4人の10グループ）</p>
10分	<p>「受け取りましたか？では、これから立って自分の仲間をさがしに行ってください。ただし、探すときは、最初に元気よく、“アッサラーム”、別れるときは、“ドノバン”と言って別れて下さい。仲間が全員そろいましたら、グループで座って下さい。では、はじめて下さい。」</p>	<p>全員が見やすいよう2セット用意。 ①～⑩まで写真、地図をすべて掲示。 （またはパソコンで画面に一斉表示） ※ 明るくて、元気のある写真を選ぶ</p>
20分	<p>「では、国あてクイズをはじめます。これから10個のヒントを出します。分かった段階でグループの代表は先生のところへ国名をいいに来て下さい。ヒントは10問、最初のヒントで正解したら10点です。ただし、2回間違った時点でグループの点数は0点です。では、はじめます。」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 私たちはアジアの国からきました。（子供の写真） ② 私は毎日5回お祈りをしています。 ③ 私の国は日本より人口も人口密度も多いです。 ④ 私の国では毎日3食カレーを食べます。 ⑤ 私の国には自転車タクシーがあります。 ⑥ 私の国はインドの東どなりにあります。 ⑦ 私の国は大きなガンジス川が流れています。 ⑧ 今私の着ているのは、この国の民族衣装です。 ⑨ この写真の女優さんのお父さんの国籍です。 ⑩ 最終ヒントです。これが私の国の国旗です。 	<p>全グループが国名を理解した後、用紙を配布し（各グループ代表へ渡す）、各写真についてグループでさらに考え、理解を深める。<u>知識を与えず、グループで考えることを促す。</u> （他、黒板に貼る or 記入する点数表）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 明るい表情の写真を複数枚用意 ② 宗教観の違い（イスラムの今の世情についてはあまり触れない） ③ 国の活気さが伝わるように ④ 食文化の違いを知る、カレーの本場であること（自分が誤って左手で食べているカレーの写真を見せる） ⑤ この国の屋台骨の仕事、人力車からくるリキシャ、人々のマンパワーに触れる <p>※どんな印象ですか？これは何ですか？</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑥ 国旗と日本・自分との由来、日本との縁・つながりを少し感じさせたい（ジャムナ橋、切手、2タカ通貨など） <p>※ 文字は下の名前のみ、B6の厚紙40枚、緑と赤のペン（国旗も書かせる） 簡単な挨拶と文字を学ぶ。言葉と文字を通しコミュニケーションをはかる。 グループ内で挨拶。（2～3分） （前回同様グループ学習の続き）</p>
30分	<p>「では、先ほどの写真をもう一度見てみましょう。」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ベンガル人（98%）、ベンガル語 ② イスラム教、礼拝（サラート） ③ 面積は、日本の3分の1、人口密度（国全体として見ると日本の3倍） ④ 様々なカレーの種類の写真～レパートリーの多さ <p>「この写真には間違いがあります。さて何か考えてみましょう。」</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑤ 「これは、この国の自転車タクシーです。」 「このタクシーのことを何というか知っていますか。」 「そうです。これはリキシャという乗り物だね。この名前は日本の何からきているか分かるかな？」 「また、この国の国旗⑥も見てみよう。日本の国旗と似ているよね。」 	<p>じゃんけんなどで5人を選ぶ。生徒はできるだけ元気な生徒を選ぶ。</p>
50分	<p>次にベンガル語で自分の名前を文字で書いてみよう。 みなさんに配布したベンガル語の表をもとにベンガル文字で名字・名前を書いて見ましょう。 ベンガル語で簡単な挨拶をしましょう。（カタカナで板書） （こんにちは、私の名前は～、さようなら、ありがとう）</p>	



（左手）

2時間	<p>「今日は数名にベンガル人の服をきてもらいます。」 (男子2人、女子3人のパンジャビ、サロワカを用意)</p>	<p>残りの生徒はおでこにシールを貼る。 (おでこのシールはヒンズー教を意味) ※エクマットラの子供たち</p>
10分	<p>「それ以外の人たちは、今日は他のバングラデシュの人々になってもらいます。この袋にはいつているシールをおでこに貼って下さい。」～その間に着替える or 上から被る 数分後、「さあ、登場して下さい。」～曲にあわせながら入場。(おでこシールは前回の順位順で選択させる)</p> <p>「ベンガル語で簡単な挨拶をしましょう。」 「ヒンズー教～ノモシュカル、イスラム教～アッサラームで挨拶して下さい。また、親愛の意味をこめて、挨拶の終わりに胸に手をあてましょう。今日は、他のグループと挨拶をして下さい。」(2～3分) (前回の挨拶に少しアレンジを加える)</p>	 <p>※ バングラデシュの宗教割合を事前に説明しておく。 <u>エクマットラでの踊りの映像を見せる</u> エイブラハムダンスの踊りを事前に一部の生徒と練習しておく。また、アブラハムの宗教の歌(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)について理解を深める。</p>
20分	<p>「では、次にこの映像を見て下さい。これは、現地の子供たちがみんなで歌って踊るエイブラハムダンスです。～さあ、みなさんその場に立って下さい。」</p> <p>「それでは、本日のゲームに入りましょう。」 「これから各グループに物を配ります。配られた物を日本とバングラデシュの2つのグループに分けてみて下さい。それでは、グループの代表者はとりにきて下さい。」(難しい写真は波線)</p> <p><u>写真の種類～できるだけ明るい写真を選ぶ</u></p>	<p>カードの裏には、バングラデシュの洪水の写真と日本の富士山の写真(例) (バングラデシュの洪水と日本で考える洪水の意味の違いについて考えるきっかけ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とバングラのユニクログッズの紹介 ・日本車が多い ・他、忍者ハットリ君 ・友好の切手を見せる ・2タカ硬貨、100タカ紙幣の紹介
30分	<p>① 祈りの写真 ② <u>ユニクロの写真</u> ③ お米の比較 ④ 車の写真(日本車と車用ガードレール) ⑤ <u>ドラえもののアニメ</u> ⑥ スポーツ(クリケットと野球) ⑦ 道路の写真(交通量と人の数) ⑧ 郵便ポストの写真 ⑨ 紙幣、硬貨の比較(1タカ～5タカ) ⑩ 教室の風景</p> <p>※振り分けている様子を確認後、 「振り分けは終わりましたか?では、配付した物から、グループで気になった写真または物を1つ選んで下さい。選びましたら何が気になったのか、何に気づいたのかグループで意見をまとめて下さい。」 「では、Aグループは何が気になりましたか?」 「Aグループと同じ物を選んだグループはありますか?」 ※ 各グループに聞いていき、グループごとの考えをみんなまで共有する。すべてのグループに確認する。</p>	<p>10分程度、グループで話し合わせた後、各グループより発表 (バングラデシュのよさや、いい印象をもってもらえるような写真を提示) ※ 各グループからの発表の要点を黒板に板書する。 ※ 発表内容が重複しないよう1番目のグループの発表後は、違う着眼点をもったグループに発表させる。 <u>生徒より</u> ①日本ではこんなに深々と祈らないのでは ⑦これは何の行事なのか。 ⑧郵便ポストはなぜ色分けされているのか。</p>
50分	<p>「では、以上の話から、他に何か各グループで疑問に思うことがないか再度話し合ってください。」 数分後、 「A～Jグループで疑問に思うことはありませんか?」 ※ 疑問点について出てくれば、再度みんなまで考えなぜなのかいろんな視点から考えていく。</p> <p>「それでは、本日の授業について感想を用紙に記入してください。」(日本と比べて何を感じましたか?)</p>	<p><u>感想用紙</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 衣装・シールについて 2 歌・踊りについて 3 写真の比較について

3時間

ベンガル語での挨拶。(1分) ~グループ内で行う

「今日は、日本とバングラデシュをもう少し深く考えてみましょう。これから、各グループに15枚のカードを配ります。カードについては、日本の中学1年生のせいかと小学3年生のけいすけ、また、私が訪れたバングラデシュの小学校から中学校の子供にインタビューして聞いたことについて書かれています。カードは、日本とバングラデシュを比較したものです。それぞれのカードのついて1枚ずつ、表に返し1人が書かれている文を読み上げて下さい。まず、グループで話し合い、そのカードの空欄に言葉を埋めて下さい。でははじめて下さい。」

※ 10分間グループで考えさせ、5分間で解答する。

「では、これから日本とバングラデシュについて、違いの視点からカードを3つに分類して下さい。分類方法は、

- ・あっている違い
- ・あってはいけない違い
- ・どちらともいえない違い

のいずれかに分類して下さい。その時なぜ、そのカードをそのように分類したのか、グループ内でよく話し合ってからカードを分けて下さい。では、はじめて下さい。」

※10分間グループで話し合わせる。

※15分間をつかって振り返る。

カード内容

【学校と子供】

- ① 日本の小・中学校では、昼食は教室で食べるがバングラデシュでは家に帰って食べる。
- ② 日本では、男女とも共学で、午後まで学習するが、ダニアさん(15)の学校では、女子は午前、男子は午後に学校に行く。
- ③ けいすけ君の宝物(8)は、ゲーム機だが、セムル君(8)の宝物は家族だ。
- ④ バングラデシュでは、「宗教」の科目があるが、日本にはあまりない。(日本の道徳という科目と比較)

【宗教】

- ⑤ 日本では、毎日お祈りをする習慣はあまりないが、ダニアさんは、1日に5回お祈りをしている。
- ⑥ 結婚後、日本の女性と比べてバングラデシュの女性はあまり外で働かず、家事をする人が多い。(習慣?)

【家庭】

- ⑦ けいすけ君はピーマンとにんじんが嫌いで残すが、セムル君は嫌いなものはなく何でも食べる。
- ⑧ 日本ではカレーライスのスプーンで食べるが、バングラデシュでは手で食べる。
- ⑨ けいすけくんの家では水道の水はそのまま飲めるが、セムル君の家では沸騰させてから飲む。

15分

※ 明るく楽しい国だと思わせたい

今回は、親愛の意味をこめて指と指をくっつけての挨拶で行う。(胸に手をあてる)

15枚のすべてのカードの穴を埋める形式である。解答については、各グループにあてていき、正解を聞き出す。まずは、すべてのカードの空欄を埋める。

(15点のポイントゲーム形式)

※ 10分話し合い、5分解答

※セムル君、ダニアさん、けいすけ君、せいかさんの写真を掲示

(2セット)

留意点

- 1 バングラデシュの文化や、日本とのつながりについて考える。
- 2 あっている、いけない、どちらともいえない違いのカードを振り分けさせ、振り分けたカードの背景に隠れているものを丁寧にひもとく。
- 3 今の日本にはない、日本人が忘れていたものをバングラデシュを通して気づかせる。

カードを3つに分類後の振り返り内容

教師の生徒への問いかけ

- ・なぜ家に帰って食べるのか?
(衛生面、冷蔵庫、燃料などきちんとしたインフラ整備がなく資源が乏しいことに気づかせる)
- ・なぜ女子と男子で学習時間帯がちがうのか?(生徒数多、宗教面、教師不足)(学習時間短い→あってはいけない)
- ・自分にとって大切なものは何なのか。(日本人が忘れていたものではないのか)(あっている)
- ・みんなは、小学校のとき宗教という科目ではないが何か勉強しなかった?(あっている)
- ・宗教を生活の第一にすること(あっている)
- ・なぜ女性は家で働くことが多いのか
バングラでは外で女性をあまり見かけないことも注目させる(あっている)
- 「食べ物を残すことについてどう思う?」(あっている)
- ・食べ物を手で食べる意味を考える
「手で食べることについてどう思う?」(あっている)
- ・衛生面(安全に飲める国が少ないこと)(あってはいけない)

	<p>⑩ けいすけ君は4人家族だが、セムル君は12人の親戚と共同生活している。</p> <p>【習慣】</p> <p>⑪ 日本では恋愛結婚が多いが、バングラデシュでは見合い結婚が多い。</p> <p>⑫ 日本の休日は土曜日と日曜日だが、バングラデシュは金曜日と土曜日である。</p> <p>【医療】</p> <p>⑬ せいかさんは病院で産まれたが、ダニアさんは家で産まれた。</p> <p>【その他】</p> <p>⑭ けいすけ君の家では新型TVを最近購入し、セムル君の家では故障したTVを何度も修理し使っている。(様々な修理の写真を見せ、「日本人としてどう思う?」)</p> <p>⑮ せいかさんの地域は災害はあまりないが、ダニアさんの地域は年に一度洪水(浸水)がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ共同生活なのか (あっていい) ・なぜ見合い結婚が多いのだろう? バングラの家制度についても考えてみる (あっていい? どちらともいえない?) ・カレンダーを教室で見せる (あっていい) ・なぜ家で産むのか、看護師が少ないことについて (風習、宗教的観点から) (あってはいけない? どちらともいえない?) ・物の大切さ (使い捨てが多い日本人にはない感覚)、買い物袋も麻袋を使うなどなぜ修理するのか→モノがないから (あってはいけない) ・ダニアさんの父の職業が農業、洪水のおかげでより多く収穫できること、舟渡りなどの違う仕事ができる (あってはいけない? どちらともいえない?) <p>あってはいけない違いについて～「生命」「差別」に関わることを通し考えを深める。また、「教育」「衛生」に関わることも望ましくないことについて、みんなで考え発問する。</p> <p>あっていい違いについて～「文化」・「習慣」・「風習」などの好みの違いのカードを通し考えを深める。</p> <p>どちらともいえない違いについて～判断が難しい、判断材料がとぼしい、グループで意見が分かれたなど。</p>
25分	<p>※ それぞれのカードについて、3つに分類した後、「では、これからカードをどのように分類したのか聞いていきます。まずは、あってはいけないカードに分類したカードはどれですか?」～ある1つのグループに答えさせる「他のグループで同じカードを選んだグループはありますか?」「なぜそのカードをあってはいけないと判断したんですか?」</p> <p>「それでは、改めてみなさんにとってあってはいけない違いはどのようなカードのことをいいますか。」</p> <p>「次にあっていい違いに分類したカードはどれですか?」</p> <p>「次にどちらともいえない違いに分類したカードはどれですか?」</p> <p>※ あってはいけない違いと同様の手法で進めていく。</p> <p>※ 生徒から「自発的な気づき」がいかに引き出すことができるかである。その場の状況から、生徒へ様々な切り口から発問をなげかけ、最低1回は、はっと気づかせる時間にしたい。普段は物事に対し1方向的な考えで処理しがちだがカードの意味を少しでも深く考えさせたい。「それでは、本日の授業について感想を用紙に記入してください。」</p>	<p>注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その国の制度だから・・・ ・その人の問題・意思だから・・・ ・仕方がない、なんとなく・・・ <p>など、現実論的な視点しかもたない生徒に対して、「あなたはどうか考えるんですか?」など生徒に問いかけ、気持ちを引き出させるような発問を投げかける。</p>
50分		

グループ決め写真

1 広告の写真



2 露天風景



3 野菜売場



4 現地の子供たち



5 川の風景写真



6 モスクの写真



7 カレーライス



8 交通状況



9 農村風景



10 お米



グループ決めの写真

4人×10グループ 写真を4分割 (全部で40枚)
簡単な挨拶 (こんにちは)、自分の名前、握手、別れの挨拶
を入れる。(アイスブレイキング)

国あてクイズ

①子供たちの様子



②モスクにいた女性



③マーケットの様子



④カレーライス



⑤リキシャと青年



⑥現地の地図

地図を黒板に貼る

⑦ダッカ風景



⑧サロワカミューズを着た女性



⑨ローラさんの写真

写真を黒板に貼る

⑩国旗の掲示



国当てクイズの写真

10枚の写真を掲示、生徒の状況や様子を見ながら写真の1枚1枚に注釈を加えながら説明する。それぞれの写真はその国と特に強く関わるものを選ぶ。授業では付箋を使い各グループ1回のみ解答で順位を競った。

比較の写真 (バングラデシュ)

①お祈りの様子



②ユニクロ



③現地のお米

現物を小袋に入れる

④現地の車



(ガードレールがついている)

⑤ドラえもん

現地でもドラえもんが放映されている (ヒンディー語)

⑥クリケット (スポーツ)



⑦ダッカの風景



⑧郵便ポスト



⑨現地のお札と硬貨

現物を小袋に入れる

⑩現地の学生の様子



比較の写真（バングラデシュ）

- ・お札（日本が関わったジャムナ橋が描かれている）
- ・車（日本車が多い、接触事故が多いためガードレールがついている）
- ・クリケットは日本の野球のようなもの（国技）
- ・ユニクロ（縫製業を通じた日本とのつながり）

比較の写真（日本）

①お祈りの様子



②ユニクロ



③日本のお米

現物を小袋に入れる

④日本の車



⑤ドラえもん

日本のドラえもんの画像

⑥野球（スポーツ）



⑦旭川の町並み



⑧郵便ポスト



⑨日本のお札と硬貨

現物を小袋に入れる

⑩

旭川商業の生徒写真

比較の写真（日本）

日本とバングラデシュでつながりのあること、関わりのあることに気づく。また、これ以外にも日本とバングラデシュに関わることについて考えてみる。

年 組 番 名前

第1回レポート 「 」へようこそ！

1 話してみよう

2 どんな国？

3 「 」文字って

年 組 番 名前

第2回レポート 歌おう！踊ろう！ 「 」人になりきろう

1 衣装、歌、踊り

2 イスラム教って？

3 比較してどう思った？

年 組 番 名前

第3回レポート 「 」って何？

あっていい違い

あってはいけない違い

どちらともいえない違い

あってはいけない違いとはどういう違いですか？また、それはなぜですか？

1 1. 評価方法

- ・【**関心・意欲**】 バングラデシュのくらしや文化に関心を持っているか（ワークシート）
- ・【**技 能**】 他者の意見に耳を傾け、違いについて考え、自分の意見をのべることができたか。（ワークシートや授業の様子）
- ・【**知識・理解**】 バングラデシュと日本が、様々な点でつながっていることを理解できたか。（ワークシート）

1 2. 苦勞した点・改善点

- ・写真と「違いのカード」の選択にかなり時間がかかりなかなか進まなかった。
- ・研修に行く前に、もっと具体的な日程の内容や事前準備をしておくべきだった。
- ・写真や、カードを通し事前に予想される内容をもっと深く考えておく必要がある。

1 3. 授業づくりのための参考資料・引用文献

- ・バングラデシュ国づくり奮闘記～アジア「新・新興国」から日本への メッセージ（池田 洋一郎）
- ・成長著しい「次の新興国マーケット」～バングラデシュ経済がわかる本（南谷 猛 他）
- ・地球の歩き方～バングラデシュ

1 4. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

- ・違いのカードについては、大いに考えさせられた。自分の考え方と他の生徒たちの考え方がいろいろ違っていて考えさせられました。最初はこうじゃなきゃいけないというものがありましたが、本当はいろんな考え方があっていいということに気がつくことができました。
 - ・エイブラハムダンスが一番楽しかったです。バングラデシュに対して貧しいというようなイメージしかありませんでしたが、元気に歌っている様子を見て楽しい気持ちになりました。私も幼稚園の時に歌ったことがあります。歌詞も日本語で歌ってくれてすごうれしかったです。
 - ・最初はカレーを手で食べるということに抵抗感がありました。でも、私も寿司など手で食べていることに気づき、これは習慣で相手のことを理解してあげることだと思えるようになりました。
 - ・やっぱり3時間目のカードの時間が一番楽しかったです。でも、時間が足りないです。授業では2枚程度のカードについて先生から問いかけがありました。そのカードのどちらも私が考えていたことより深いものでカードの表面だけしかみていない自分を恥ずかしく思いました。もっともっと1枚1枚のカードのうらに隠れていることを話し合ったり考えてみたかったです。ありがとうございました。
- ※ 洪水のカードは特に生徒にはインパクトがあったようです。日本では洪水はよくないで片づけられますが、現地の生活と切り離せないもので必要なものであることは意外なことだったようです。子供たちが驚いたりはっと気づいたりする様子がこの授業の醍醐味だと思います。

1 5. 備考（授業者による自由記述）

準備も含め、あつという間の研修旅行であった。事前にもっとバングラデシュに関することを調べたりしておけばよかったと思う。現地について思うことは、町全体が活気があってとても明るい国であることだ。日本では人とのつきあいでは一線を画するところも、バングラデシュではさらに一步踏み込んだつきあい方があるようだ。風習、文化、民族、宗教など実際に見てみて、今までは違いというような一言で片づけていたものでも、大きなくくりでみると人間として同じような似ているようなものなのではないかと考えられるようになった。教師生活に今後も随所に活かしていきたいし、将来自分自身ももっとこういったことに関わりたいと思っている。このような体験をさせてくれた関係諸氏の方々に感謝の気持ちで一杯である。